

「支部だより」

昭和35年度日本気象学会東北支部地方会開催について

本支部学会地方会は昭和35年5月26, 27日の両日山形市あこや荘にて山形, 福島地区気象研究会と合同して開催された。講演題目は総数22, 質疑討論も盛んで予定時間をかなり超過し甚だ有意義な会であったが, 気象官署以外からの出席者は依然として少なく東北大大西教授と山形国産婦人科病院国井事務長の2人だけであった。発表題目および発表者は次のとおりである。

第 1 日

1. バイメタル日照計とジュールガン日照計とによる日照時間の相違について 尾花沢 名和 藤男 (代読) 長谷川安利
2. 月の北偏南偏時における福島の低温について 福島 小林 善博
3. イソプレット解析による週期現象の掴み方についての一案 山形 川添 信房
4. 6ヶ月を隔てた天気(気温)の対照的変化について 尾花沢 長谷川安利
5. 福島県における水稲収量分布の特性について 福島 梅田 三郎
6. ユーラシヤ大陸上の循環解析 仙台 渡辺 正雄
7. 濁川の水害について 若松 大野 栄寿 橋本 公司
8. 山形県における水害時の災害量の予想について 一注: 警報基準のための資料一 山形 川添 信房
9. 酒田における冬の季節風の分類について 酒田 組谷 幸雄

気 象 の 英 語 (24)

26. the same.

same は“同じ”または“同じもの”という意味で, ものを限定するから, どんな場合でも常に the がつく。“～同じ”という時には, “the same～as～”または“the same～that～”が使われるが, 前者は同一種類のものを表わすとき, 後者は全く同一のものを指す時に使われる。たとえば

He was given **the same** watch **as** yours.
=彼は君と同じ(種類)の時計をもらった。
That is **the same** watch **that** you lost.
=それは君がなくしたのと同じの時計だ。
That is **the same** watch **as** you lost.

10. 小名浜および付近の南風について 小名浜 小曾納 昭
11. 福島県沿岸の波浪について 小名浜 中来 充
12. 小名浜における初動の調査 小名浜 浜名 広
13. 会津の霧について 若松 湯浅 健

第 2 日

1. 新庄における雪の予報 新庄 佐藤善三郎
 2. 山形県における県平均及び小予報区平均日雨量の客観的予想報について 山形 大江謙三郎
 3. 雷予報に関する調査 福島 三瓶 次郎
 4. 1959年7月22日山形県西部に発生した局地性豪雨の主としてメソ解析について 山形 島田 守家
 5. 局地性豪雨, 強雷雨, 降雹の際のメソ天気図 山形 島田 守家
 6. 出産率と気象 国井病院 国井 幸次
 7. 雪面における熱収支に関する研究 仙台 吉田 作松
 8. 大鳥川の流出について 荒沢 三矢 弘
 9. 中小河川の出水予報について 新庄 佐藤 義正
- 今回発表は論文は大部分局地気象の調査研究であるが発表者の予報関係者が多いので予報的立場から研究しているものが多い。水文気象, 長期予報に関するものは共に2, 3編あり, 地震については1編だけで, 地方会としては今回珍らしく国井氏より出産率と気象と云う衛生気象の問題が発表された。(藤沢記)

=それは君がなくしたのと同じ(種類)時計だ。
しかし, “彼も君と同じ気象台で働いている”という時,

He works in **the same** meteorological observatory **that** you do.

または

He works in **the same** meteorological observatory **as** you.

といふ

He works in **the same** meteorological observatory **that** you.

とは云わない。(192頁につづく)